

1 題材名「性」と「生」

2 題材について

現代社会の抱える倫理的課題の中から課題を選択し、生徒が主体的に課題を探究する学習へ発展させるよう討論するなどの活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての生き方、社会の在り方について理解と思索を深め、これから生きる自立した「地球市民」としての資質を育てる。

3 目標

- ・性的マイノリティを取り巻く社会の現状や差別についての知識を得て、性的マイノリティの立場を共感的に理解することができるようにする。
- ・性的マイノリティの人権に関心を持ち、性的マイノリティに対する社会の在り方について考え、社会に対し主体的に関わろうとする態度をもつことができるようにする。

4 教科、領域等との内容的関連

- (1) 保健「生涯を通じる健康」
- (2) 家庭総合「人の一生と家族・家庭」

5 単元の指導計画（8時間）

| 時数 | 主な学習内容・学習活動 |
|-------|--|
| 1 | 「自己の内なる差別」～性的マイノリティに対する差別について考える。 |
| 2 | 「同性愛者と社会」～同性愛者が抱えている社会生活での具体的困難さについて考える。 |
| 3（本時） | 「同性婚」～日本の婚姻制度を踏まえ、同性婚について討議する。 |
| 4 | 「性の多様性」～同性愛と性同一性障害の違いについて考える。 |
| 5 | 「世界の動向」～諸外国の対応例を参考にこれからの在り方を考える。 |
| 6 | 「性的マイノリティ」～性的マイノリティに対する差別や偏見についての自分の考えをまとめる。 |

6 指導展開例

□:ねらい・課題 ▭:学習内容 ▭:発問・指示など

| | 主な学習内容・学習活動 | ○指導上の留意点 ◆評価 |
|-----|---|---|
| 導入 | 1 同性カップルが抱える問題と婚姻の法的な意味について確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">パートナーシップ法って？</div> | ○同性婚を男女間の婚姻と同じ法的効力をもつパートナーシップ法によって保障されるものと本時で定義する |
| 展開 | 2 日本における同性婚の在り方を個人で考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに賛成・反対の理由を考え記入する。 3 4名10班のグループで、同性婚の在り方について討議し、班で話し合ったことを代表者が発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに班としての意見と、賛成・反対の理由を考え記入する。 ・発表内容をカードに記入し黒板に貼る。 4 自分の班と他の班、自分の意見と他者の意見を比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">性的マイノリティの立場を共感的に理解することを通して、社会に主体的に関わる態度を身に付ける。</div> | ○理由が単純な感情論になっていないかを意識するよう促す。 ○賛成は青字、反対は赤字で記入させたカードを対比しやすいように黒板に貼る。 ◆互いの感じ方や考え方、意見を尊重し合ってディスカッションすることができたか。 ○賛成の理由は個人の人権を根拠にする一方、反対の理由は社会の伝統や秩序を根拠とする傾向を指摘する。 |
| まとめ | 同性カップルに対する法的保障の最新の動きの説明を聞く。 5 振り返りを記入する。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">互いの感じ方や考え方、意見を尊重し自己の課題とつなげて探究しよう</div> ◆性的マイノリティの立場を共感的に理解し、ワークシートに書き出している。 |

【ワークシート (例)】

倫理 「性」と「生」

●「同性婚を法律で認めることについての意見」

①あなた個人の意見 (賛成)・反対・どちらともいえない

○賛成する側の理由を考え、箇条書きにまとめてみよう。

- ・たとえ同性でも好きな人どうしが結ばれることは良いことだから。
- ・誰かに迷惑をかけるものではないから。

○反対する側の理由を考え、箇条書きにまとめてみよう。

- ・同性婚では子どもができず、少子化がますます進むから。
- ・結婚という制度そのものが同性婚を前提としていないものだから。

②班の意見 (賛成)・反対・どちらともいえない

○賛成する側の理由を考え、箇条書きにまとめてみよう。

- ・人というのは異性を必ず愛するとは限らないから。
- ・法的に守ってあげる必要があるから。

○反対する側の理由を考え、箇条書きにまとめてみよう。

- ・法律で同性婚を認めようとする理由がわからない。養子縁組で良い。
- ・社会的合意を得るのが難しいから。

1 題材名「人工妊娠中絶」

2 題材について

近年、思春期における性行動が活発化していることを背景に、人工妊娠中絶の問題や性感染症の増加が社会問題となっている。特に札幌市においては、10代の人工妊娠中絶率や性感染症罹患状況が全国平均より高い実態である。異性への関心が高まり、性的欲求も強まっていく高校生の時期において、避妊や人工妊娠中絶の正しい知識を身に付けるとともに、相手を尊重し、責任のもてる性行動を選択できる態度を養うことが必要と考え、本題材を設定した。

3 目標

- ・人工妊娠中絶の実態や人工妊娠中絶が心身に与える深刻な影響を理解できるようにする。
- ・人工妊娠中絶を巡る議論について、自分なりの考えをもてるようにする。
- ・望まない妊娠を避けるための適切な行動を選択できる態度を育てる。

4 教科、領域等との内容的関連

- (1) 家庭総合 「人の一生と家族・家庭」

5 単元の指導計画（2時間）

| 時数 | 主な学習内容・学習活動 |
|-------|--|
| 1 | 「家族計画」 家族計画の意義を理解する。正しい避妊法を理解する。 |
| 2（本時） | 「人工妊娠中絶」 人工妊娠中絶の実態を知る。心身に与える影響について考える。 |

6 指導展開例

□：ねらい・課題 ■：学習内容 □：発問・指示など

| | 主な学習内容・学習活動 | ○指導上の留意点 ◆評価 |
|--------|---|--|
| 導 入 | <p>あなたは、人工妊娠中絶について、どのように考えるだろうか？</p> <p>「人工妊娠中絶」を巡る議論について、親友Bさんと留学生Cさんのどちらの立場に立つかを明確にし、理由を述べよう。</p> <p>1 資料1を読み、ワークシート1)に、その理由をまとめる。</p> <p>「人工妊娠中絶」を巡る議論について、様々な意見に触れてみよう。</p> <p>2 立場の異なる生徒と意見交換し、ワークシート2)にまとめる。 〈予想される反応〉 「親友Bさん派」・望まない出産は避けるべき ・高校生では育てられない</p> | <p>○既習の受精・妊娠・出産の仕組みについても触れながら、資料1を提示する。</p> <p>○高校生という立場で、社会的、経済的条件や精神的発達段階にも着目して考えることができるようにする。</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| 導入 | 「留学生Cさん派」・赤ちゃんの生きる権利を奪う ・胎児も命である | ○立場の異なる意見から自身の考えを広げるよう促す。 |
| 展開 | <p>我が国では、どのくらいの人工妊娠中絶が行われ、どのような理由で中絶が行われているのだろうか。</p> <p>3 資料2を読み取り、人工妊娠中絶の実態(中絶件数)、中絶が行われる背景、母体保護法で中絶が認められる理由について理解する。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>中絶件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々下降しているものの、約18万件 ・未成年ばかりではなく、幅広い年齢層で行われている <p>中絶が行われる背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的見通しを考えない性行動(経済的余裕がない、学業・仕事を辞めたくはない) ・避妊の知識不足や誤解による望まない妊娠 ・「母体保護法」 身体的、経済的理由で妊娠の継続により母体の健康が損なわれる場合 性的暴力の結果による妊娠の場合 </div> <p style="text-align: center;">人工妊娠中絶が体と心に与える影響を考えてみよう。</p> <p>4 資料3を読み、人工妊娠中絶手術(初期・中期)方法、心身に与える影響について理解する。</p> | <p>○年代別の中絶件数にも着眼し同世代の中絶の実態についても説明する。</p> <p>○資料2の読み取りをペア活動で行ってもよい。</p> |
| まとめ | <p>5 本時の内容を踏まえ、ワークシート3)に、「人工妊娠中絶」を巡る議論において、各自の考えをまとめる。</p> <p>6 ペアで各自の考えを発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>人工妊娠中絶は、法的に認められる場合もあるが、心身に深刻な影響を与える。また、生命の誕生は奇跡的でもある。</p> <p>よって、望まない妊娠は避けなければならない。そのためには、避妊の正しい知識を身に付け、相手を尊重し、責任のもてる適切な行動を選択できることが大切。</p> </div> | <p>○授業前と授業後の考えの深まりや変化を意識できるようにする。</p> <p>◆人工妊娠中絶の実態や人工妊娠中絶が心身に与える影響を理解できているか。また、それを踏まえ、人工妊娠中絶について自分なりの意見を述べられているか。(ワークシート)</p> |

資料1 「人工妊娠中絶について考える」

資料1 「人工妊娠中絶について考える」

あなたはどのように考えますか？

私は、今、高校2年生です。同じ部活動に所属する同学年のAさんが妊娠し、人工妊娠中絶をしたという話を聞きました。

このことについて、親友のBさんと留学生のCさんの意見が対立しています。2人の話を聞いた私は、…。

親友Bさんの意見

- ・胎児の命が失われるのは、とても悲しいことだけど、Aさんもいろいろ悩んで決めたことだと思う。
- ・今、出産したとしても、子どもを育てることは無理。また、Aさんには自分の人生を選ぶ権利がある。
- ・人工妊娠中絶は、妊婦の体が弱い場合に母体の健康を守ることや、望まない妊娠に対応する方法として法律で認められている。

海外からの留学生Cさんの意見

- ・人工妊娠中絶は、絶対に認められない。
- ・私の国では、胎児も人間として生きる権利があるという考え方が大切にされている。自ら生きる権利を主張できない胎児の命を人工的に絶つことは認められないと考える人が多い。
- ・Cさんは、避妊をしないで性行為をした。胎児の命に対する責任をどう考えているのか。

私の意見

親友Bさんと留学生Cさんの意見を聞いた私は、どう考えるか。



資料2 (厚生労働省「平成25年度衛生行政報告例の概要」より引用)

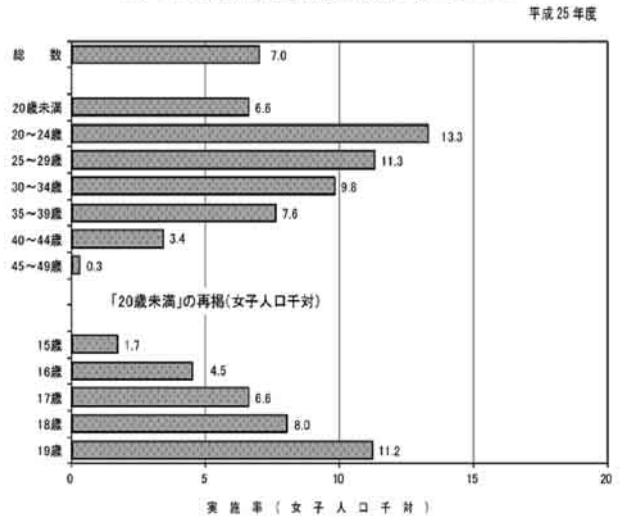
表7 人工妊娠中絶件数及び実施率の年次推移

| (単位:件) | 各年度 | | | | | 対前年度 | |
|--------|------------------|-----------------------------|---------------|---------------|---------------|----------|------------|
| | 平成21年度 (2009) | 22年度 ¹⁾ ('10) | 23年度 ('11) | 24年度 ('12) | 25年度 ('13) | 増減数 | 増減率 (%) |
| 総数 | 226 878 | 212 694 | 202 106 | 196 639 | 186 253 | △ 10 386 | △ 5.3 |
| 20歳未満 | 21 535 | 20 357 | 20 903 | 20 659 | 19 359 | △ 1 300 | △ 6.3 |
| 15歳未満 | 395 | 415 | 406 | 400 | 318 | △ 82 | △ 20.5 |
| 15歳 | 947 | 1 052 | 1 046 | 1 076 | 1 005 | △ 71 | △ 6.6 |
| 16歳 | 2 548 | 2 594 | 2 831 | 2 701 | 2 648 | △ 53 | △ 2.0 |
| 17歳 | 4 031 | 3 815 | 4 099 | 4 038 | 3 817 | △ 221 | △ 5.5 |
| 18歳 | 5 683 | 5 190 | 5 264 | 5 344 | 4 807 | △ 537 | △ 10.0 |
| 19歳 | 7 931 | 7 291 | 7 257 | 7 100 | 6 764 | △ 336 | △ 4.7 |
| 20～24歳 | 51 339 | 47 089 | 44 087 | 43 269 | 40 268 | △ 3 001 | △ 6.9 |
| 25～29歳 | 48 621 | 45 724 | 42 708 | 40 900 | 37 999 | △ 2 901 | △ 7.1 |
| 30～34歳 | 45 847 | 42 206 | 39 917 | 38 362 | 36 757 | △ 1 605 | △ 4.2 |
| 35～39歳 | 41 644 | 39 964 | 37 648 | 36 112 | 34 115 | △ 1 997 | △ 5.5 |
| 40～44歳 | 16 544 | 15 983 | 15 697 | 16 133 | 16 477 | 344 | 2.1 |
| 45～49歳 | 1 302 | 1 334 | 1 108 | 1 163 | 1 237 | 74 | 6.4 |
| 50歳以上 | 27 | 25 | 21 | 14 | 22 | 8 | 57.1 |
| 不詳 | 19 | 12 | 17 | 27 | 19 | △ 8 | △ 29.6 |

| 実施率 (女子人口千対) | | | | | |
|---------------------|------|------|------|------|------|
| 総数 ²⁾ | 8.3 | 7.9 | 7.5 | 7.4 | 7.0 |
| 20歳未満 ³⁾ | 7.3 | 6.9 | 7.1 | 7.0 | 6.6 |
| 15歳 | 1.6 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.7 |
| 16歳 | 4.4 | 4.4 | 4.8 | 4.7 | 4.5 |
| 17歳 | 6.8 | 6.5 | 6.9 | 6.8 | 6.6 |
| 18歳 | 9.6 | 8.8 | 8.9 | 8.9 | 8.0 |
| 19歳 | 12.9 | 12.4 | 12.1 | 12.0 | 11.2 |
| 20～24歳 | 15.3 | 14.9 | 14.1 | 14.1 | 13.3 |
| 25～29歳 | 13.2 | 12.7 | 12.0 | 11.8 | 11.3 |
| 30～34歳 | 10.8 | 10.3 | 10.0 | 9.9 | 9.8 |
| 35～39歳 | 8.7 | 8.3 | 7.9 | 7.8 | 7.6 |
| 40～44歳 | 3.9 | 3.7 | 3.4 | 3.4 | 3.4 |
| 45～49歳 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |

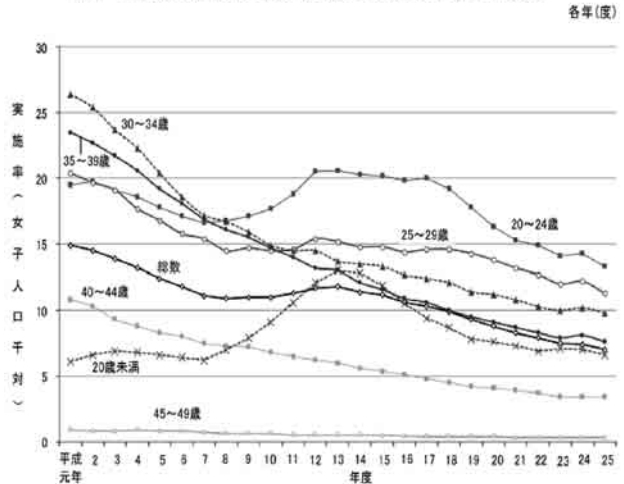
注: 1) 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相互保険福祉事務所管内の市町村が含まれていない。
 2) 実施率の「総数」は、分母に15～49歳の女子人口を用い、分子に50歳以上の数値を除いた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算した。
 3) 実施率の「20歳未満」は、分母に15～19歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含めた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算した。

図9 年齢階級別にみた人工妊娠中絶実施率(女子人口千対)



注: 1) 「総数」は、分母に15～49歳の女子人口を用い、分子に50歳以上の数値を除いた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算した。
 2) 「20歳未満」は、分母に15～19歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含めた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算した。

図10 年齢階級別にみた人工妊娠中絶実施率(女子人口千対)の年次推移



注: 平成13年までは「国勢調査報告」による歴年の数値であり、平成14年度以降は「衛生行政報告例」による年度の数値である。

1) 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相互保険福祉事務所管内の市町村が含まれていない。

人工妊娠中絶について

○人工妊娠中絶とは

手術や薬品などを用いて、人工的に胎児とその付属物を母体外に排出することです。母体保護法により「母体保護法指定医」だけが施行できます。実施は、①妊娠の継続又は分娩が、身体的又は経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのあるもの、②暴行もしくは脅迫によって妊娠した場合、だけに認められています。

出産経験のない人の子宮口はかたく閉じています。一晩かけてゆっくりと広げる必要があります。すぐに手術しようという病院で安易な処置をすると、子宮頸管を傷つけることにもなりかねません。

中絶が原因で不妊症になるのは例外といってもいいほどの数で、中絶の後遺症と断言できるものはほとんどありません。

○手術を受ける時期

妊娠12週未満は「初期中絶」、12週から21週までは「中期中絶」です。初期中絶は、全身麻酔のうえ、キュレットという道具で子宮内を掻き出します。中期中絶は、人工的に陣痛をおこして産みます。何日かの入院が必要で、分娩と同じくらいの費用もかかります。出血量の増加など母体への負担が大きいため、できるだけ妊娠初期に手術することが望まれます。妊娠22週0日以降の妊娠では、どのような理由があっても人工妊娠中絶は行えません。

【ワークシート (例)】

ワークシート

テーマ：多角的な視点で「人工妊娠中絶」を理解する

1) 資料1を読み、矢子とケビンの意見を参考にしながら、「人工妊娠中絶」に対するあなたの立場を明確にし、その理由を述べなさい。

矢子派 どちらでもない ケビン派
 5 4 3 ② 1

<理由>

| |
|---|
| 確かに様々な事情もあると思うが、胎児も一人の人間であり、どんなことがあっても、命を粗末にはしてはいけないと思う。よって、人工妊娠中絶には、否定的な考えである。 |
|---|

2) 意見交流～様々な立場に触れる

| | |
|--|---|
| 名前・番号 (- 4) 望まない出産は、生まれてくる子どもを不幸にしてしまうのではないかと。 | 名前・番号 (- 5) 最後に苦しい思いをするのは、女性である。女性を守るためにも、中絶は必要。 |
| 名前・番号 (- 3) どちらの事情も理解でき、どちらともいえない。難しい問題である。 | 名前・番号 (- 1) ケビン派：赤ちゃんの生きる権利を奪うことはよくない。また、胎児も命である。 |

3) まとめ～授業の内容を踏まえて、「人工妊娠中絶」について、考えの深まりや変化をまとめる

| | |
|---|---|
| 最終的なあなたの立場は？ | 矢子派 どちらでもない ケビン派 5 4 ③ 2 1 |
| 基本的には、人工妊娠中絶は、胎児の命を絶つことに変わりはないと思う。しかしながら、母親の健康問題、強制的に妊娠させられる等、やむを得ない事情がある場合には、最後の手段として、人工妊娠中絶を選ばざるを得ないこともあることがわかり、考え方が少し変化した。 | |
| 中絶は、手術を伴うもので、心身に大きな負担を与えてしまう。特に、女性の中には、胎児の命を奪ってしまったという罪悪感を抱え生きていくこともあるという。そもそも、人工妊娠中絶を拒く望まない妊娠は避けられるべきであり、望まない妊娠を避けるための正しい知識を身につけ適切な行動をとることが大切であることがわかった。 | |

4) メモ (仮書事項)

組 番号 氏名

1 題材名「生命と人権」

2 題材について

高校生期は思春期後半に当たり、体は成人に近づき、性機能も成熟する。また、性意識の変化に伴い、男女交際、性感染症、望まない妊娠等、性に関する諸問題が身近になる時期でもある。

学校では各教科等において性に関すること、生命の尊厳、生命倫理、生命科学等に関する社会問題を扱う学習が行なわれる。それら各教科で学んだ内容を踏まえ、「生命と人権」というテーマを核にして現代社会における諸問題について各々が意見を述べ合い、他者の意見を聞くことにより自分の生き方について考える機会としたいと考えた。また札幌市で設定している「子どもの命の大切さを見つめ直す月間」の対象となる9月に本題材を設定した。

3 目標

- ・自他の生命を尊重する態度を身に付ける。
- ・多様な価値観を受容し、互いを尊重し共に生きようとする気持ちをもつ。
- ・人権課題について正しい理解と認識を深め、偏見や差別をなくそうとする態度を身に付ける。

4 教科、領域等との内容的関連

- 保健 「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」
- 家庭基礎 「人の一生と家族・家庭」「子どもや高齢者とのかかわりと福祉」
- 現代社会 「私たちの生きる社会」
- 倫理 「現代の諸課題と倫理」
- 特別活動 「適応と成長及び健康安全」

5 指導展開例1

□：ねらい・課題

■：学習内容

□：発問・指示など

| | 主な学習内容・学習活動 | ○指導上の留意点 ◆評価 |
|----|---|---|
| 導入 | <p>「生命と人権」という言葉から連想するキーワードをあげてみよう。</p> <p>《予想される反応》 人工妊娠中絶 人工授精 代理母 性情報 LGBT エイズ 性被害 途上国の課題 赤ちゃんポスト クローン など</p> <p>資料を読み、自分が深めたいテーマを決めよう。</p> <p>生徒は自分が深めたいテーマを1つ選び、テーマ毎に7、8人ずつのグループに分かれる。移動した後、グループ全員で資料を読み合わせる。</p> | <p>○生徒から出たものを板書する。</p> <p>○次時に招く講師の専門性を考慮し、複数の学習テーマを設定し、各テーマに関する資料を配付する。プレゼンテーションソフトでも提示する。</p> |

| | | |
|-----|--|----------------------------------|
| 展開 | グループでの交流をもとに、生命と人権に関する問題に対し考えを広め、深めよう | |
| | 1 テーマ別グループディスカッション (30分) <ul style="list-style-type: none"> 司会者、記録者を決め資料に関するディスカッションをする。 自分の考えや意見をまとめ、伝える。 他者の意見や考えを聞く。 多様な価値観があることに気づく。 | ○机間指導をし、話しやすい雰囲気を作るよう留意する。 |
| まとめ | 2 グループ発表 (10分) <ul style="list-style-type: none"> グループで話し合ったこと講師への質問事項をまとめ、全体で交流する。 | ◆他者と意見を交わすことで多様な価値観を受容することができたか。 |
| | 3 グループ発表についてまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 多様な価値観を受容するとともに、いろいろな観点から生命の尊厳や人権について思考し、差別や偏見をなくそうとする態度が大切。 </div> | |
| | 4 次時の予告 | 次は講師の講話 |

- 資料は生徒の実態と講師の専門を考慮したものにする。講師と事前に相談の上、内容を決定することが重要である。
- 資料は、設定した学習テーマに関するもので、生徒の学習意欲を喚起するものを選ぶ。
例) 新聞記事、研究論文など

指導展開例 2

: ねらい・課題
 : 学習内容
 : 発問・指示など

| | 主な学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----|--|--|
| 導入 | 前時の振り返り 講師紹介 | ワークシート配布 |
| 展開 | 1 講演 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 専門家の話を聞き、正しい知識、現状を知り、自分の生き方や他者との関わり方について考え、今、そしてこれからどう生きていくのかを考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の現状や課題について理解する。 偏見や差別をなくそうとする気持ちを持ち、命の大切さや生き方について考える。 | |
| | 2 講師への質問 | ○疑問に思ったことやさらに知りたいことがあれば発表するよう促す |
| まとめ | 3 ワークシートへの記入 | ○ワークシートに記入させる。 ◆生命や人権に関する現状や課題について正しく理解し、差別や偏見について考え自分の生き方について考えることができたか。 |

指導上の留意点

- 講師は「札幌市産婦人科医師及び助産師による講師派遣事業」を活用する。
- 前時に話し合った内容や質問項目を事前に講師へ送り、講演の中で触れていただくことで双方向の交流になるようにする。

【ワークシート（例）】

「生命と人権」グループディスカッション用紙 記載例

テーマ「 発展途上国の妊産婦死亡 」

2年 組 メンバー

司会者に◎印、記録者に☆印をつけてください。

グループで出た意見・感想

- ・日本のいいところが分かった。
- ・おめでたいはずの出産でお母さんが亡くなるのはとても悲しい。
- ・出産のリスクを考えさせられた。

○講師の先生に聞いてみたいこと

- ・日本はどのような経緯をたどって、妊産婦死亡を少なくしていったのか？
- ・妊産婦死亡のおもな原因は何か？
- ・妊産婦死亡率の一番高い国と低い国はどこか？

「生命と人権」講演会 振り返りシート

2年 組 番 氏名

自分が最初興味をもったテーマ

- ・発展途上国の妊産婦死亡

講演を聞いて興味をもったテーマ（最初と同じでもかまいません）

- ・10代での出産

講演を聞いて理解したこと・感じたこと・考えたこと等を記入してください。

- ・10代で出産することはすごく勇気のあることだと思った。
- ・経済力のない状態での出産はやはり避けるべきだと思う。
- ・避妊の正しい知識をきちんと知る必要がある。
- ・妊娠に気づかないことがあるとは思わなかった。自分の体のことをよく知りたい。
- ・相談する人や場所の必要性を痛感した。

指導展開例

高等学校
3年生

人間と性

特別活動
LHR

2 / 2 時間
扱い

1 題材名「人間と性」

2 題材について

高校生期は形態面ではほぼ大人の体に近づき、性機能も成熟し、精神面も著しく発達する。高校3年生は自分の人生をどう生きるかという課題に向き合う時期であり、人生設計においては誰しもが性に関する課題に直面することになる。そこで、今まで学んできた性に関する知識を総合的に理解し、人間として適切な意志決定や行動選択をし、近い将来、恋愛や結婚といった出来事を健やかに経験していけるよう本題材を設定した。また、学習を生活に活かす手だてとして、生徒個々の生活に入り込んだ学習ができるよう、学びたいことを自由に選択し、少人数で授業を展開する「カフェテリア方式」での学習を計画した。

3 目標

- ・性に関する知識を総合的に理解し、課題や問題に対する適切な意志決定と行動選択をしようとする態度を育てる。
- ・自他の生命や人権を尊重する態度を育てる。
- ・健やかなライフプランを設計しようとする態度を育てる。

4 教科、領域等との内容関連

- (1) 保健 「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」
 家庭総合 「人の一生と家庭・家族」
 社会と情報 「情報社会の課題と情報モラル」
 現代社会 「現代社会と人間としての在り方生き方」

5 単元の指導計画 カフェテリア方式による指導

| 時 数 | 主な学習内容・学習活動 |
|-----------|---|
| 1 | <p>「テーマ選び」クラス単位での活動</p> <p>興味・関心のあるテーマを2つ選び、今知っていること、知りたいことをまとめる</p> <p>テーマ…異性の心と体、性衝動への対処、妊娠と出産、恋愛と結婚、家族計画、人工妊娠中絶、性感染症、性的マイノリティ、男女関係のトラブル、インターネット上の性被害</p> |
| 2 (本時) | <p>「カフェテリアでの学習」体育館での活動</p> <p>生徒：120名</p> <p>講師：10名 学年団、養護教諭、外部講師（専門機関、他校の養護教諭など）</p> |

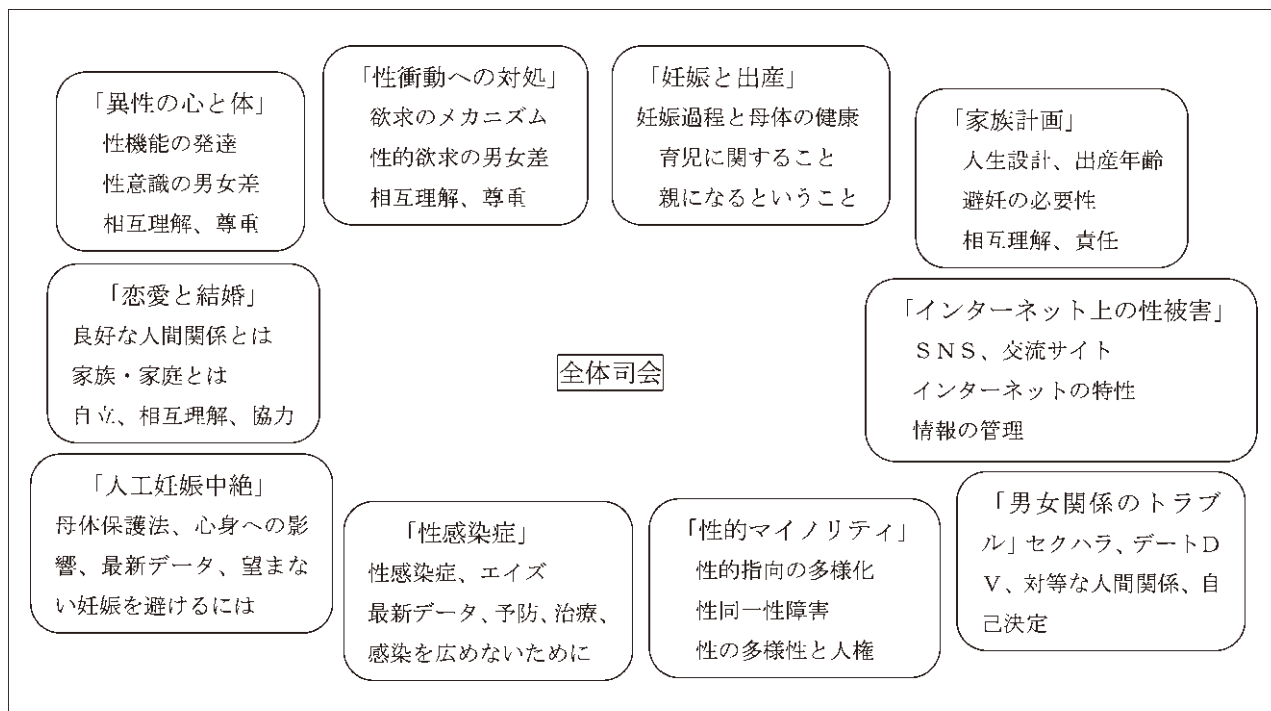
6 指導展開例

□：ねらい・課題 ▨：学習内容 □：発問・指示など

| | 主な学習内容・学習活動 | ○指導上の留意点 ◆評価 |
|----|--|--|
| 導入 | 1 学習目標と活動の流れを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自他の生命や人権を尊重する態度を身に付けよう </div> | |
| | 2 講師の紹介 | |
| 展開 | 3 自分の関心のあるテーマを2つ選び、テーマに関わる課題について協議を行う。 ・各講師のもとで学習し、質疑応答の内容も含め学習メモを作成する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 様々な課題に対して、適切な対処をすることが大切。 </div> | ○適切な用語や表現で説明する。 ○課題解決方法を考えさせる。 ◆課題や問題に対する適切な意志決定や行動選択をしようとしているか。 |
| | まとめ | 移動交流 ○他のテーマの人との交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 性に関する知識を総合的に理解し、課題や問題に対する適切な意志決定と行動選択が必要である。 </div> |

〈資料1〉 カフェテリア方式による学習、場所：体育館

各テーマのキーワードおよび体育館配置図



〈資料2〉

「人間と性」学習メモ(例) 年 組 番 氏名

テーマ1 「 男女関係のトラブル 」

①学習したこと

- 冗談のつもりでも、相手に不愉快な思いをさせたり、傷つけてしまうことがあること。
- 独占欲が強くなると、デートDVの危険性が高まると思った。
- 男女交際はやはりお互いの思いやりが大切ですね。
- 困ったときの相談機関がたくさんあること。

②今後活かすこと（考え方、行動選択、予防、対処法など）

- 男女という固定観念ではなく、一人の人間として、互いに尊重しなければならない。
- 相手から嫌なことをされたら、はっきりと嫌だと言いたい。
- 困った時には、ことが大きくなるうちに、信頼できる人に相談したい。

テーマ2 「 性感染症 」

①学習したこと

- エイズについては感染者が増加していること。
- 早期の治療で感染しても、発症が抑えられること。
- 献血をエイズ検査の代わりにしてはいけないこと。
- 普通の生活をしていれば、共同生活をしていても感染しないこと。

②今後活かすこと（考え方、行動選択、予防、対処法など）

- 性行為をするような機会があった時には、コンドームを必ず使うこと。
- 身近にHIV感染者がいても、普通に接しようと思う。
- 性感染症の疑いがあったら、恥ずかしがらずに病院に行くこと。
- 性交は妊娠や性感染症のリスクがあるので、十分注意したい。

指導事例

高等学校
全学年

HIV/AIDS 知ろう・伝えよう

特別活動
生徒会活動

2時間～

1 題材名「HIV/AIDS 知ろう・伝えよう」

2 題材について

HIV/AIDS は次のような特徴をもつ。

- ① 治療の進歩によって HIV 感染症は慢性疾患となったが、いまだに治癒はない。
- ② 服薬は生涯におよび、一人の治療費は高額である。
- ③ 陽性者の多くは無症候性キャリア期にあり自覚症状はないが、感染性がある。
- ④ 感染の有無は抗体検査を受けなければ分からない。
- ⑤ エイズはいまだに社会の偏見差別にある。
- ⑥ HIV は社会的脆弱性の高い人々に広がる等という特徴をもつ。他

HIV 感染症の感染経路は性行為、母子感染、血液媒介に大別でき、誰もが感染するリスクをもっている疾病である。感染経路が限られているため予防可能であると考えられがちであるが、感染は人間の行動に深く関わっているため、効果的な予防が難しいことが患者数の増加などからも分かる。

先進国のなかでも日本は感染者が増え続けているという実態があり、特に北海道は性感染症患者が多いことから HIV/AIDS に関しても考えていかなければならない。

生徒が今まで学んできたことをもとに自分たちで調べ、生徒自身が発信することで自主的・実践的な取組になると考える。高校生にできる「正しい知識をもつこと、無関心でないこと」をスローガンに、知ることが最大の予防になることを仲間同士で伝え合うことで、人権意識や人間尊重の精神を培うことができる。

3 目標

- ・ HIV/AIDS について正しく理解することができるようにする。
- ・ 委員は仲間からの共感を得ながら活動することで自主的な取組が広がり、一般生徒は仲間から学ぶことでより身近な問題として HIV/AIDS をとらえることができ、双方が学びを深めようとする。
- ・ 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

4 教科、領域などとの内容関連

- (1) 保健 「現代社会と健康」
- (2) ホームルーム活動 「適応と成長及び健康安全」

5 各場面での活動の取組

- 広 報：「保健委員会だより」などで特集する。校内放送での呼びかける。
- S H R：「保健委員会だより」、「ボランティア委員会だより」などの広報を活用し HIV/AIDS についてクラスに説明する。
- 文化祭：展示や、スライド等で発表する。
- 他校交流：学んだことを地域の小中学生に伝える。

○地域交流；地域主催のイベントに参加する。

例；エイズ予防週間 エイズフォーラム、世界エイズデー等

6 指導展開例 1

| | 「文化祭」や「世界エイズデー」にあわせての発表 |
|-------|---|
| テ ー マ | ・ HIV/AIDS について考えよう |
| 設定の理由 | ・ HIV/AIDS の現状を正しく理解し、予防法や社会の取組を知る。 ・ 病気によって人を差別しないという人権意識、人間尊重の精神を培う。 |
| ね ら い | ・ HIV/AIDS について正しい知識をもち、今自分たちにできることは何かを考えさせる。 |
| 対 象 | ・ 全校生徒、保護者（保健委員・ボランティア委員が企画・実施） |
| 指 導 者 | ・ 委員会担当者 |
| 場 所 | ・ 1F 生徒玄関前ホール |
| 内 容 | ・ 展示 HIV/AIDS の正しい知識・予防法、なぜ差別がおこるのか、治療法、医療費について世界・日本・札幌の現状、サポート体制はどうなっているのか 等 ・ 活動 レッドリボンの作成、メッセージボード作成、パンフレット配布 |
| そ の 他 | ・ 新聞局や放送局とタイアップし取組を取り上げてもらう。 ・ 区の保健センター等と連携を図ったり、活動に参加したり、発表したりする。 |

指導展開例 2

| | 異年齢集団との交流 |
|-------|--|
| テ ー マ | HIV/AIDS について知ろう・伝えよう |
| 設定の理由 | ・ 自分たちが調べた内容を小中学生に伝えるため、より平易な言葉でわかりやすく伝える工夫をすることを通して、自分たちが学んだことの理解をより深めることができる。 ・ 相手を意識し、尊重しながら活動をすることで小中学生からも学ぶ有効な機会とする。 |
| ね ら い | ・ 他者に伝えることで自分の学びがより深まる。 ・ 相手に対する様々な心遣いや配慮を意識させる、 ・ 地域に根ざした生徒会活動をつくりだす。 |
| 対 象 | ・ 小学校○年生、中学校○年生 |
| 指 導 者 | ・ 委員会担当者 |
| 場 所 | ・ ○○小学校 ○年○組 ○○中学校 多目的室 等 |
| 内 容 | ・ プレゼンテーションによる発表 HIV/AIDS の正しい知識・予防法、なぜ差別が起こるのか |
| そ の 他 | ・ 事前、事後の指導を適切に行なう。 |